

平成31年度 学力向上アクションプラン

1 中期学校経営方針

(1) 学校経営中期取組目標

学校経営中期取組目標	教育課程全体で 育成を目指す 資質・能力
<p>学校教育目標実現のために、〔希望〕〔幸福〕〔他愛〕あふれる、児童・保護者・地域・教職員にとって魅力ある学校づくりを進めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの子どもが、主体的に課題を解決する学びを大切にし、授業力の向上に取り組みます。 一人ひとりの子どもに寄り添い、互いを認め合う豊かな心や、たくましく健やかな体を育むように努めます。 一人ひとりの子どもの学びと生活を支える教育環境の整備、改善を進めます。 一人ひとりの子どもが、地域行事や地域との交流活動等を通して、まちに貢献する心を育みます。 近隣の幼保小中高大学連携を進め、教育活動の充実を図ります。 	<ul style="list-style-type: none"> ○言語能力 ○問題発見・解決能力 ○自分づくりに関する力

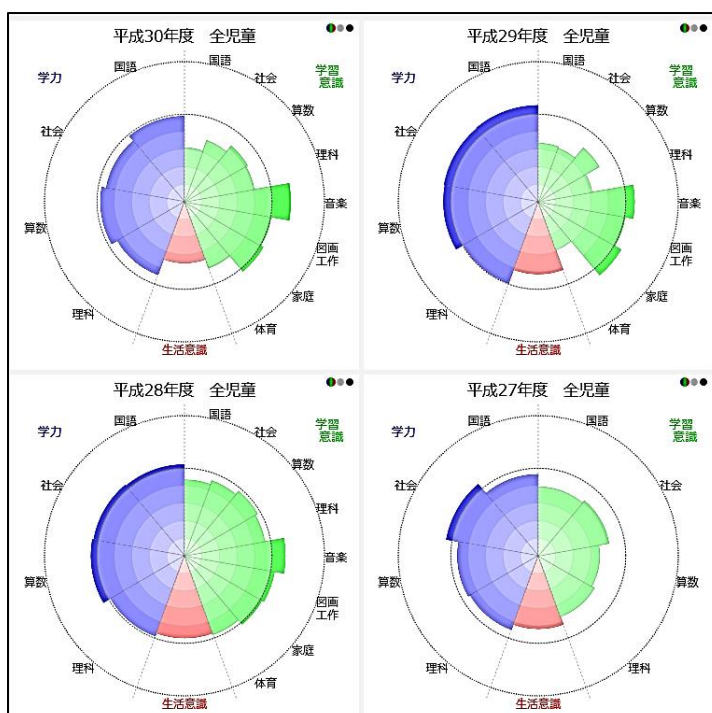
(2) 学力向上に向けた重点取組分野・取組目標・具体的取組

重点取組分野	取組目標	具体的取組
生きてはたらく 知	育成を目指す資質・能力を明確にし、見方・考え方を働かせた学びを追求します。	子どもが自ら問題を見だし、これまでの学習や体験をもとに問題の解決に取り組むなど、見方・考え方を働かせた学びを計画し、主体的・対話的で深い学びの実現を目指していきます。また、朝のスキル・読書タイム、各学年の発達段階に応じた家庭学習を実施し、学習の習慣化、基礎的・基本的な学習事項の定着を図ります。
担当	教育課程部	

2 横浜市学力学習状況調査等からの実態把握

(1) 学力の概要と要因の分析

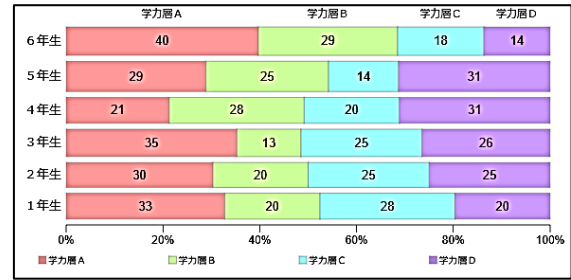
横浜市学力・学習状況調査結果より、H27年度からH29年度にかけて、国語、社会、算数は市平均を上回り、理科も市平均と同等となったことから、各教科の学力が向上していたが、H30年度では詩の平均を下回り、学力が低下したことが分かる。国語、算数の学習が好きである、大切であると回答する児童もH30年度低下している。これは、子ども自身の主体的な学びになっていないこと、学んだことを学習や生活で活用できず、その有用性を実感できていないことなどが原因だと考えられる。問題発見、問題解決を通し、その有用性を感じ学びを活用しようとする意識を高めたい。また、学年の実態に応じた発言の仕方、ノートまとめ方、振り返りの仕方などの段階的な指導やスキルタイムの充実を図る必要がある。



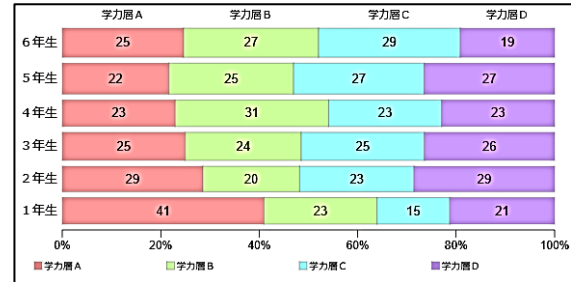
【学力層について】

- ・国語、算数とも学力層 A と B の児童を合わせると、半数程度となる。一方で学力層 D の児童が 3 割程度となる学年や教科もある。
- ・各学年とも総じて低学力層の割合が大きい。特に 3 年生以上での低学力層の割合は大きく、低学年から基礎的・基本的な学習内容の確実な定着を図る授業が求められるといえる。
- ・国語では学年による学力層のばらつきがある。算数では、学年が上がるにつれ、A 層の割合が小さくなる傾向にある。算数では特に学習の積み重ねを確実にしていくとともに、学力の定着を図る必要がある。
- ・学習意識、生活意識の低下に伴って、学力の低下や学年によるばらつきがある。意識向上と学力向上の両面から指導していく。

国語



算数



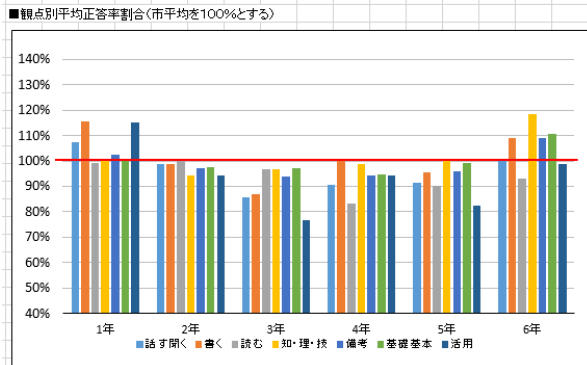
(2) 教科学習の状況

- 国語科：1年では「書く」が大きく上回る。「読む」は2年は上回るが、他は下回る。
- 算数科：1、2、6年で「考え方」が上回るが、「基礎・基本」は1年以外は下回る。

H30 横浜市学力・学習状況調査【正答率】

全学年 国語

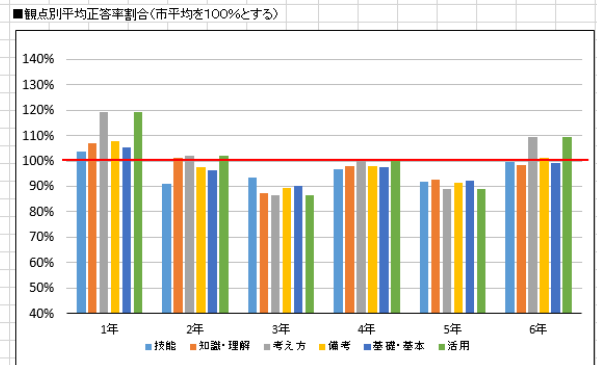
学年	■観点別平均正答率割合(市平均を100%とする)						■備考正答率割合推移(市平均を100%とする)								
	話す聞く	書く	読む	知識・理解	思考・判断	活用	1年	2年	3年	4年	5年	6年			
1年	107%	116%	99%	101%	103%	101%	115%								
2年	99%	99%	101%	94%	97%	98%	94%				109%	99%			
3年	86%	87%	97%	97%	94%	97%	77%			91%	94%	106%			
4年	90%	100%	83%	99%	95%	95%	94%			109%	95%	111%	100%		
5年	91%	95%	90%	101%	96%	99%	82%			98%	94%	99%	101%	108%	
6年	101%	109%	93%	118%	109%	111%	99%			103%	97%	94%	95%	96%	109%



H30 横浜市学力・学習状況調査【正答率】

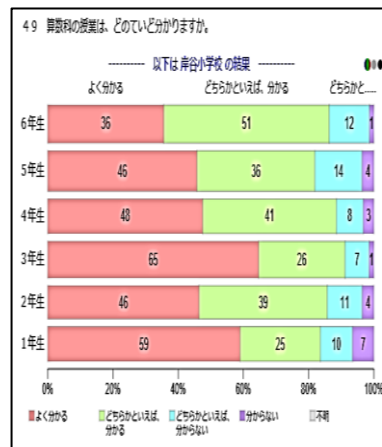
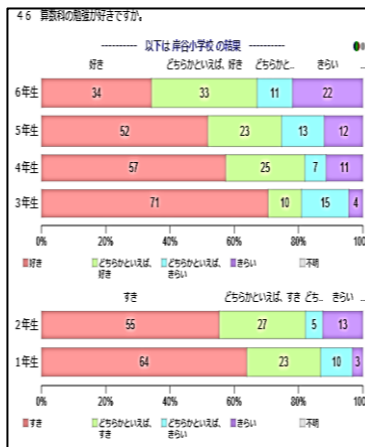
全学年 算数

学年	■観点別平均正答率割合(市平均を100%とする)						■備考正答率割合推移(市平均を100%とする)								
	技能	知識・理解	考え方	思考・判断	活用	基礎・基本	1年	2年	3年	4年	5年	6年			
1年	104%	107%	119%	108%	105%	119%									
2年	91%	101%	102%	98%	97%	102%					115%	101%			
3年	93%	87%	87%	90%	90%	87%					88%	95%	109%		
4年	97%	98%	100%	98%	97%	100%				117%	94%	107%	105%		
5年	92%	93%	89%	92%	92%	89%				105%	96%	97%	106%	96%	
6年	100%	99%	110%	101%	99%	110%				108%	98%	90%	98%	92%	101%



(3) 経年変化の状況と要因の分析

「勉強は好きか」と「授業は分かるか」という二つの設問について、学年が上がるにつれて概ね低下傾向にある。高学年については、授業が分かる児童が7割程度に対し、勉強が好きな児童は5割程度となっている。この結果から、児童が自ら進んで課題を探究したり、協働的に学ぶよさを実感したりすることに課題があると考えられる。



3 学年・教科等としての具体的な取組

子どもの学びづくり



これまでの本校の研究では、育成を目指す資質・能力を明確にした上で、話し合いの中から課題を見出し解決したり、互いの意見を交流したりすることを通して、主体的・対話的で深い学びの実現を目指してきた。その中で、新たな問いを見いだしたり、考えを深めたり、さらには態度が変容したりするためには、自ら学びを進め、内容を深く理解していけるようにすることの重要性が明らかになってきた。そのためには、授業の改善と合わせて、スキルタイムや家庭学習を充実させ、基礎・基本の定着を図ることも大切である。

見方・考え方を働かせた学び

授業の中で問題と出会い、問いが生まれたときには、解決に向けた原動力・推進力が必要となる。そのために、子どもたちがどんなところに目を着け、これまでの学習や経験からどのようなアイデアを想起すればよいのかを明確にし、自ら学びを深めたことを実感できるようにしていく。

内容のより深い理解

子どもたちが獲得する知識や技能は、その授業のとき以外でも活用できるものであることが大切である。内容をより深く理解できるように、学習のつながりに子どもたち自身が気づき、学ぶよさを感じられるようにしていく。

岸谷 SR	スキルタイム	読書タイム	家庭学習
<p>少人数グループでの学習指導と、3年～6年の算数での習熟度別指導により、個々の実態に応じた支援を行い、課題に取り組む。</p>	<p>火曜日～金曜日までの朝の時間にプリントやドリル等を活用して計算や漢字などのスキル学習を行う。繰り返すことで基礎的・基本的な学習事項の定着を図る。</p>	<p>火曜日～金曜日までの朝の時間、スキルタイム後に読書タイムを設定。本に対する関心を高め、読書習慣を身に付けられるようにする。</p>	<p>各学年、音読、国語や算数のプリントなど、毎日家庭学習を行うことで、家庭と連携し学習の習慣化を図る。</p>
<p>取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 個の状況に応じた補充的学習 算数の基礎的・基本的な学習 	<p>取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 漢字練習 計算練習 (プリント、ノート) 	<p>取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 国語を中心として、授業で扱われる教材に関連した本を各教室や学年の本棚に置く。 	<p>取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 音読カード 漢字練習 計算練習 (プリント、ノート)